

令和 7 年度 事 業 報 告 書

I 経営状況の概要

1 一般財団法人移行後の動き

平成20年（2008年）12月1日に公益法人制度改革関連法が施行され、旧制度の特例民法法人である財団法人は、5年以内に新制度へ移行しなければならないことになった。

シティサポートよこすかは、「横須賀市及びその周辺地域において、地域住民の暮らしの向上と健康の増進を図るため、都市諸施設及び都市環境の整備に関する公益事業及び収益事業等を行い、もってこの地域の発展に寄与すること」を目的として、平成24年（2012年）5月21日付けで一般財団法人への移行認可を神奈川県から受けた。

一般財団法人又は一般社団法人への移行認可を受ける法人は、「従来の法人が税法上の優遇などにより内部留保した財産（公益目的財産）を公益の目的のために支出して零にする計画（公益目的支出計画）を作成しなければならない。」と定められている。

シティサポートよこすかは、財団法人横須賀市都市施設公社から一般財団法人へ移行する際、公益目的財産額に相当する約 37億2,600万円を公益目的事業である「実施事業等会計」で支出することにより、13年間（年 約 2 億8,700万円）で零にする計画を定め平成24年（2012年）9月19日付けで神奈川県から認可を受けた。

その後、体育会館や運動公園、自転車等駐車場等の指定管理事業、ポートマーケット運営等の地産地消事業、駐車場等の運営管理事業などを展開してきた。

しかしながら、ポートマーケット運営事業をはじめ収益事業における赤字が累積し、法人全体として公益目的支出（実施事業等会計）を抑制せざるを得ない状況が続いていた。公益目的支出を確実に遂行するためには収益事業を黒字化し、これを維持する必要がある。

そこで、平成30年度（2018年度）に新たに経営方針・経営計画を策定し、これまで展開してきた事業の枠組みを大きく見直し、経営基盤の確立を目指すこととした。

経営基盤の改善を前提に公益目的支出に新たなスポーツ・文化振興事業の実施、市への寄附（特定寄附）などを位置付け、年間支出予定額を変更（年 約 1 億円）し、令和元年（2019年）9月1日付けで神奈川県から公益目的支出計画の正式な変更認可を受けた。

変更認可後初めての決算である令和元年度（2019年度）は、公益目的支出計画を初めて達成するとともに収益事業等についても黒字に転換した。令和2年度（2020年度）は、コロナ禍により体育会館など多くの指定管理施設の運営において、施設の閉鎖や開館時間の短縮などの多大な影響を受けた。

特筆すべきは、コロナ禍の影響を受けつつも、令和元年度（2019年度）に続き収益事業等は約1億2,600万円余の黒字となり、公益目的支出計画についても約1億4,500万円余と目標（約1億円）を大きく上回って達成して、財団として初めて法人全体の黒字化（約960万円）を達成することができたことである。

令和3年度（2021年度）は、ポートマーケットのリニューアル工事に伴う固定資産除却損等の計上や令和2年度（2020年度）分のコロナ禍による指定管理料の精算などの多額の経常外損失（△約1億5,600万円）があり、法人全体の収支である当期一般正味財産増減額はマイナス決算となった。

一方、本業の収支である評価損益等調整前当期経常増減額は、引続きコロナ禍による施設運営や事業の実施に影響を受けながらも、市役所北口駐車場や指定管理事業等において収益事業等の利益（約1億4,300万円）を確保した結果、令和2年度（2020年度）を上回る当期経常利益（約4,600万円）を計上することができた。また、公益目的支出計画も変更認可以降、3年連続で目標を上回る支出（約1億1,200万円）をすることができた。

令和4年度（2022年度）は、3年続いたコロナ禍も徐々に平常を取り戻したことから感染対策を十分に行いつつ公益目的事業であるCSYスポーツ・文化振興事業を積極的に展開した。また、延期となっていた「いちご よこすかポートマーケット」も、新たな運営事業者と定期建物賃貸借契約等を締結し、10月28日にリニューアルオープンした。

経営面では、世界情勢を反映して光熱費など諸物価の高騰や賃金の上昇があったものの、市役所北口駐車場事業が前年度を上回る増収増益となったことや、ポートマーケット事業が黒字となったことなどにより、評価損益等調整前当期経常増減額が約7,200万円の黒字、当期一般正味財産増減額が約3,400万円の黒字となり、一般財団に移行後、最大の黒字決算となった。

令和5年度（2023年度）は、コロナ感染症の感染法上の位置付けが2類から5類に移行したことで、公益目的事業であるCSYトップアスリート等指導セミナーでは、新たに9事業を加えた計25事業を実施し、延べ9,100名を超える参加者の方々に楽しんでもいただくことができた。

経営面では、市役所北口駐車場の収益が昨年に引続き増収となるなど、本業の収支である当期経常増減額は1,500万円余の黒字を達成した。

しかし、投資有価証券の売却に伴う評価益の精算（投資有価証券評価損 約△7,186万円）により当期一般正味財産増減額はマイナス決算となった。

※投資有価証券の売却に伴う評価益の精算について

平成26年3月に購入した利付国債（20年）7億円は、その前年に「満期保有目的債券」を途中売却していたことから、「満期保有目的債券」として購入することはできず、「その他有価証券」として保有したため、毎年度末の時価評価額を貸借対照表に表示するとともに、前年度との増減額を正味財産増減額に取り込んできた。その結果、令和4年度末までに約7,186万円の評価益が生じていた。

令和6年3月に当該国債を売却した際、評価益を精算する一方で、売却による利益 約4,614万円を確保した。また、購入から売却までの10年間に得た利息収入 約1億472万円を加えると、当該国債の運用に伴う利益は、総額で約1億5,086万円（年利回り約2.16%）となった。

（単位 千円）

	時価評価額	評価損益	利息収入（年1.50%）
購入価額 ①	701,288		
2013（平成25）	699,440	△1,848	0
2014（平成26）	752,150	52,710	10,224
2015（平成27）	841,750	89,600	10,500
2016（平成28）	818,440	△23,310	10,500
2017（平成29）	828,660	10,220	10,500
2018（平成30）	840,840	12,180	10,500
2019（令和元）	821,380	△19,460	10,500
2020（令和2）	813,470	△7,910	10,500
2021（令和3）	797,930	△15,540	10,500
2022（令和4） ②	773,150	△24,780	10,500
2023（令和5） 令和6年 2月末	(751,870)	(△21,280)	10,500
評価益（②－①＝③）	71,862		
利息収入合計 ④			104,724
売却価額 ⑤	747,432		
売却益（⑤－①＝⑥）	46,144		
評価損 ⑦	△71,862		
運用益	評価益③＋利息収入④＋売却益⑥＋評価損⑦		
	150,868		

※2023（令和5）年度の（ ）内の金額は、令和6年2月末の時価評価額と評価損益を参考記載

令和6年度（2024年度）は、地域福祉の充実と地域経済の活性化を目的に、公益目的支出計画の特定寄附先として、従来の横須賀市に新たに3団体（横須賀市社会福祉協議会、日本赤十字社神奈川県支部、横須賀商工会議所）を加えた公益目的支出計画の変更認可を令和6年（2024年）4月1日付で受けた。

これにより総額1,300万円を超える特定寄附（現金寄附・現物寄附）を行った。

事業では、オリンピックメダリストの平野早矢香さん（ロンドン五輪卓球銀）、寺川綾さん（ロンドン五輪水泳銅）を講師にお招きし、参加者にも大変喜んでいただけたトップアスリート指導セミナー事業を展開するなど、年間計画を上回る公益目的支出計画（約1億514万円）を実施することができた。

経営面では、本年度も賃金の上昇や光熱費など諸物価の高騰に直面しながらも、市役所北口駐車場では前年度を上回る売上げ（約2億1,600万円）を達成するとともに、体育会館をはじめとする指定管理事業などで利益を確保できたことから、本業である評価損益等調整前当期経常増減額と、経常外増減額を加えた最終損益である当期一般正味財産増減額が、ともに5,200万円を超える黒字を達成することができた。

当法人にとって、令和7年度（2025年度）の特筆すべき変革は、自己資金による基本財産の増額である。横須賀市から100パーセントの出資を受けていた3,000万円の基本財産を財団の自己資金で2,000万円増額し5,000万円とした。市からの出資割合は60パーセントとなった。（※）

第1次経営計画（平成30～令和3年度）を目標年度より早く達成し、第2次経営計画（令和4～8年度）も着実に遂行するなど、経営努力を重ねて継続的な黒字を達成しており、基本財産を自己で増額できる体力がついたことが増額に至った主な要因である。

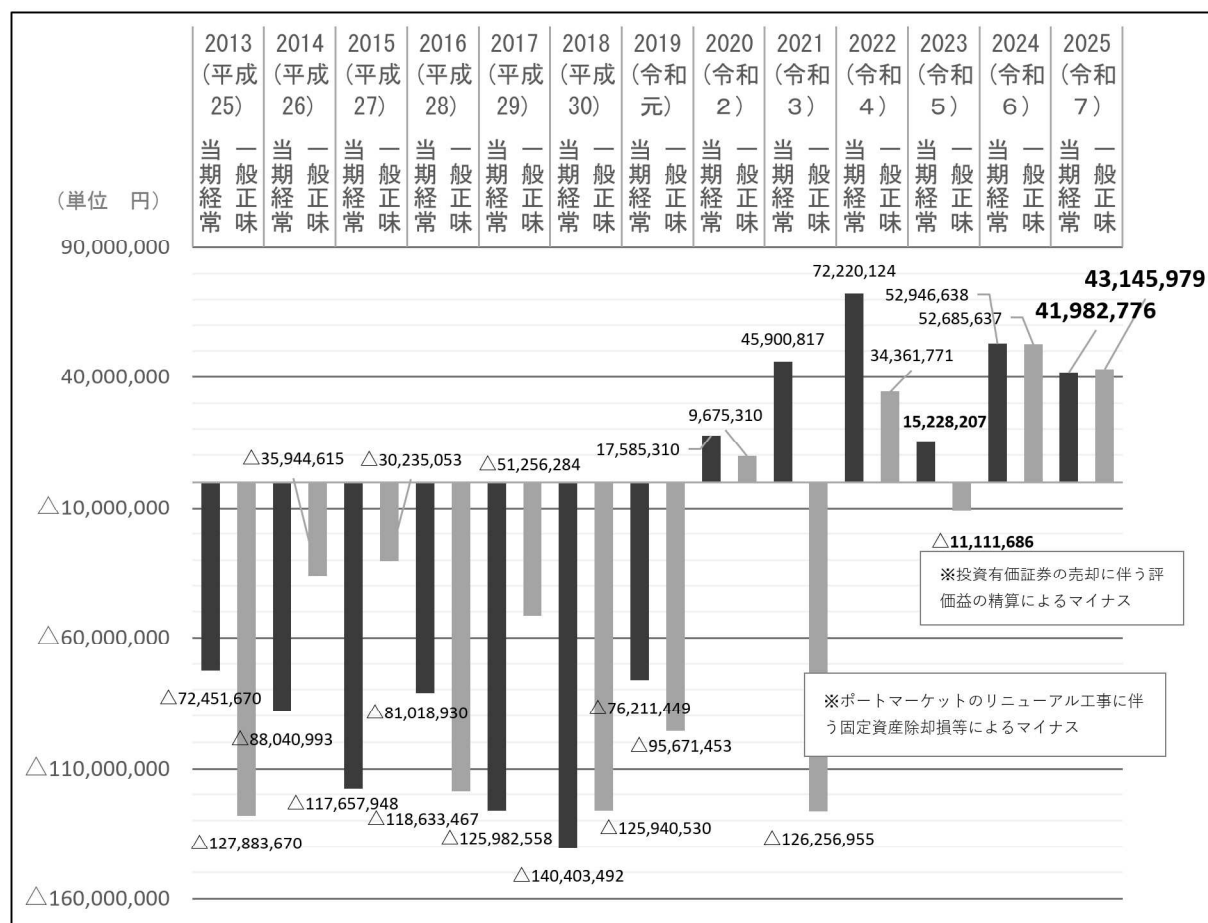
「市100パーセント出資」からの脱却により職員の自立意識とモチベーション向上にも繋がっている。

事業では、令和6年度（2024年度）に引き続き地域福祉の充実を図るため横須賀市社会福祉協議会との事業連携や赤い羽根共同募金活動への協力を積極的に行うとともに、公益目的事業であるスポーツ・文化振興事業も新たに16事業を加えた41事業を実施し、地域の方々の福祉の増進に寄与した。

市民の健康増進の一環として、市の健康増進事業を支援するため令和6年度の「骨健康度測定器」に続き、令和7年度（2025年度）は「対話支援システムやボッチャ・ボールセット」を寄附したり、健康アプリ事業を支援するなど健康の分野への事業も拡充した。

併せて、近年大地震や風水害などの自然災害が多発し、その救援救護活動で活躍されている日本赤十字社神奈川県支部に対し、令和6年度の寄附に加え令和7年度の寄附と合わせて寄附総額100万円となったことから、令和6年度の「金色有功章」に続き「日本赤十字社社長感謝状」を拝受した。

経営面では、本年度も大幅な賃金上昇と諸物価の高騰に影響を受けつつも、本業である評価損益等調整前当期経常増減額は4,100万円を超える黒字となり、最終損益である当期一般正味財産増減額は一般財団法人移行後で最高額となった令和6年度（2024年度）に次ぐ4,300万円を超える黒字を達成した。



【凡例】 ■：【当期経常】評価損益等調整前当期経常増減額
 ■：【一般正味】他会計振替前当期一般正味財産増減額

(※) シティサポートよこすか基本財産の変遷

出資・増資年月	摘 要	基本財産の額	出資割合
1955（昭和30）年9月	前身の横須賀市住宅公社設立時市から1,000,000円出資	1,000,000円	市100%
1960（昭和35）年5月	横須賀市住宅公社時代市から4,000,000円追加出資	5,000,000円	市100%
1972（昭和47）年4月	住宅公社後の横須賀市開発公社時代市から25,000,000円追加出資	30,000,000円	市100%
2026（令和8）年3月	自己資金で20,000,000円増資	50,000,000円	市60%・自己40%

2 本業である当期経常増減額は6年連続黒字を達成

平成24年（2012年）6月に一般財団法人に移行したシティサポートよこすかは、平成25年（2013年）3月から運営を始めたポートマーケット事業の赤字などが影響し、一般財団法人に移行以来、法人全体として赤字の状況が続いていた。前述のとおり、平成30年度（2018年度）に新たに経営方針を策定し経営改善に取り組み、令和3年度（2021年度）決算に公益目的支出を除く収益事業等（その他会計＋法人会計）を「黒字」にするとした経営計画の目標を令和元年度（2019年度）決算で達成した。

また、令和2年度（2020年度）決算においては、コロナ禍において固定費の圧縮、さらなる業務の見直しにより、一般財団法人移行以来初めて法人全体の収支で黒字化を達成した。

令和3年度（2021年度）決算においては、経常外費用としてポートマーケットのリニューアル工事に伴う固定資産除却損等（約△1億3,400万円）の計上により法人全体の収支はマイナスとなったが、本業の収支を示す当期経常増減額は前年度を上回る利益（約4,600万円）を計上し、コロナ禍にもかかわらず堅調な事業運営を行った。

令和4年度（2022年度）決算においては、市役所北口駐車場の増収増益やポートマーケットの黒字化など、より一層の経営改善に取り組んだ結果、一般財団法人移行後、最大の黒字（約3,400万円）を計上した。

令和5年度（2023年度）決算においては、投資有価証券の評価損（約△7,186万円）により当期一般正味財産増減額はマイナスとなったが、本業である評価損益等調整前当期経常増減額は4年連続黒字となった。

令和6年度（2024年度）決算においては、本業の収支を示す評価損益等調整前当期経常増減額は一般法人移行後、2番目の高さとなる約5,295万円となり5年連続黒字を達成した。更に、最終損益である当期一般正味財産増減額は、令和4年度の3,400万円の黒字を1,800万円上回り、一般法人移行後最大の黒字（約5,269万円）を達成することができ経営基盤が安定してきた。

令和7年度（2025年度）決算においては、大幅な賃金上昇と諸物価の高騰に影響を受けるとともに、令和6年度（2024年度）には本社経費を除く事業収支が黒字だった「自転車等駐車場事業、公園水泳プール事業（いずれも指定管理事業）」がいずれも令和6年度（2024年度）をもって事業終了となったこともあり、大変厳しい法人運営となったが、その中でも市役所北口駐車場事業と体育会館事業を主軸とした収益事業で着実に収益を確保したことから評価損益等調整前当期経常増減額は約4,198万円となり、最終損益は約4,315万円となった。

第2次経営計画に掲げた「公益目的支出（赤字）1億円以上」と「収益事業等（黒字）1億円以上」の計画目標も4年連続で達成することができた。

（単位 円）

		（公益目的支出） ①実施事業等会計	②収益事業等 （その他会計＋法人会計）	当期収支 ①＋②
2025 （令和7） 決算	評価損益等調整前当期経常増減額 ※1	△105,019,488	147,002,264	41,982,776
	他会計振替前当期一般正味財産増減額 ※2	△105,019,488	148,165,467	43,145,979

※1. 評価損益等調整前当期経常増減額：経常収益計－経常費用計

※2. 他会計振替前当期一般正味財産増減額：評価損益等調整前当期経常増減額＋評価損益等計
＋当期経常外増減額

○評価損益等調整前当期経常増減額と当期一般正味財産増減額の推移 ※ 1

(単位 円)

		(公益目的支出) ①実施事業等会計 簿価ベース [時価ベース]	②収益事業等 (その他会計+法人会計)	当期収支 ①+②
2013 (平成25) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△41,037,151	△31,414,519	△72,451,670
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△41,037,151	△86,846,519	△127,883,670
2014 (平成26) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△37,883,218	△50,157,775	△88,040,993
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△37,883,218	1,938,603	△35,944,615
2015 (平成27) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△30,684,182	△86,973,766	△117,657,948
	他会計振替前当期一般正味財産増減額 ※ 2	△30,684,182 (△30,684,182)	△654,944,979 (449,129)	△685,629,161 (△30,235,053)
2016 (平成28) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△44,793,771	△36,225,159	△81,018,930
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△44,793,771	△73,839,696	△118,633,467
2017 (平成29) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△59,528,487	△66,454,071	△125,982,558
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△35,601,996	△15,654,288	△51,256,284
2018 (平成30) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△57,236,821	△83,166,671	△140,403,492
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△56,382,332	△69,558,198	△125,940,530
2019 (令和元) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△115,435,001	39,223,552	△76,211,449
	他会計振替前当期一般正味財産増減額 ※ 3	△115,435,001 [△139,189,268]	19,763,548	△95,671,453
2020 (令和2) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△108,685,711	126,271,021	17,585,310
	他会計振替前当期一般正味財産増減額 ※ 3	△108,685,711 [△145,695,846]	118,361,021	9,675,310
2021 (令和3) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△97,485,627	143,386,444	45,900,817
	他会計振替前当期一般正味財産増減額 ※ 3	△86,267,175 [△112,493,971]	△39,989,780	△126,256,955
2022 (令和4) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△102,759,649	174,979,773	72,220,124
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△102,759,649	137,121,420	34,361,771
2023 (令和5) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△106,574,893	121,803,100	15,228,207
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△106,562,622	95,450,936	△11,111,686
2024 (令和6) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額	△105,141,975	158,088,613	52,946,638
	他会計振替前当期一般正味財産増減額	△105,141,975	157,827,612	52,685,637
2025 (令和7) 決算	評価損益等調整前当期経常増減額 ※ 4	△105,019,488	147,002,264	41,982,776
	他会計振替前当期一般正味財産増減額 ※ 5	△105,019,488	148,165,467	43,145,979

※ 1. 一般財団法人移行後、財団法人横須賀市都市施設公社時の経理を含まない平成25年度以降の表としている。

(参考) シティサポートよこすか経営計画の達成状況 ※6

区分		計画目標	決算（千円）		計画目標 達成状況
基準年	2017 （平成29）		当期經常増減額	△125,983	—
（20第1次経営計画1）	2018 （平成30）	収益事業等 〔評価損益等調整前 当期經常増減額 （公益目的支出 を除く。）〕 <u>0円以上</u>	公益目的支出①	△57,237	（計画 策定年）
			収益事業等②	△83,167	
			当期經常増減額①＋②	△140,404	
	2019 （令和元）		公益目的支出①	△115,435	達成
			収益事業等②	39,224	
			当期經常増減額①＋②	△76,211	
	2020 （令和2）		公益目的支出①	△108,686	達成
			収益事業等②	126,271	
			当期經常増減額①＋②	17,585	
	2021 （令和3）		公益目的支出①	△97,486	達成
			収益事業等②	143,386	
			当期經常増減額①＋②	45,900	
（20第2次経営計画6）	2022 （令和4）	評価損益等調整前 当期經常増減額 <u>0円以上</u> （内訳） 公益目的支出 （赤字）1億円以上 収益事業等 （黒字）1億円以上 ※収益事業等 ＝その他会計 ＋法人会計	公益目的支出①	△102,760	達成
			収益事業等②	174,980	
			当期經常増減額①＋②	72,220	
	2023 （令和5）		公益目的支出①	△106,575	達成
			収益事業等②	121,803	
			当期經常増減額①＋②	15,228	
	2024 （令和6）		公益目的支出①	△105,142	達成
			収益事業等②	158,089	
			当期經常増減額①＋②	52,947	
	2025 （令和7）		公益目的支出①	△105,019	達成
			収益事業等②	147,002	
			当期經常増減額①＋②	41,983	

- ※2. 平成27年度(2015年度)は、小川町駐車場売却損(△655,394,108円)を含む。
 (△30,235,053円は小川町駐車場売却損を除いた額で、5ページのグラフはこの数字を用いている。)
- ※3. 令和元年度(2019年度)～令和3年度(2021年度)に横須賀市へ寄附した特定寄附・現物寄附の土地は、正味財産増減計算書では帳簿価額(簿価ベース)で算定し、公益目的支出計画では固定資産税評価額(時価ベース)で算定したため簿価と時価を併記している。
- ※4. 評価損益等調整前当期経常増減額：経常収益計－経常費用計
- ※5. 他会計振替前当期一般正味財産増減額：評価損益等調整前当期経常増減額＋評価損益等計＋当期経常外増減額
- ※6. 平成30年度(2018年度)に策定した第1次経営計画では、令和3年度(2021年度)決算に評価損益等調整前当期経常増減額から公益目的支出を除いた収益事業等が0円以上となる「黒字」にすることを目標とし、令和元年度(2019年度)に達成した。また、令和4年度(2022年度)に策定した第2次経営計画では、公益目的支出が1億円以上、収益事業等が1億円以上で法人全体で「黒字」にすることを目標とし、初年度に達成した。その後も達成状況が継続している。

3 7年続けて収益事業等の黒字化を実現

平成30年度（2018年度）に策定した第1次経営計画では、令和3年度（2021年度）決算において収益事業等を「黒字」にすることを目標とした。

黒字とは評価損益等調整前当期経常増減額から公益目的支出（実施事業等会計）を除いた収益事業等（その他会計＋法人会計）が0円以上となることである。

事業の内容を精査し臨んだ令和元年度決算は、収益事業等が3,900万円余と黒字に転換するとともに、経営計画の目標を達成した。

その後、収益事業等は令和2年度（2020年度）、令和3年度（2021年度）と、それぞれ前年度を上回る利益を計上した。そして、令和4年度（2022年度）決算では、更に利益を伸ばし約1億7,400万円の黒字を達成した。その主な要因は市役所北口駐車場事業の1億2,400万円余の利益に加え、ポートマーケット事業の約2,100万円の黒字などであった。

令和5年度（2023年度）は、令和4年度には収入となったポートマーケットのリニューアル工事に伴う消費税の還付金（約2,700万円）がなかったことや、プロパー職員（5名）の定年退職等に伴う退職手当の支給など、ここ数年と比較すると利益を圧縮する要因があったものの、市役所北口駐車場事業や体育会館事業などで好調を堅持したことで1億2,000万円を超える黒字となった。

5年連続で収益事業等の黒字化を実現することができ、公益目的支出（約1億100万円）を確実に実施するための財源確保ができている。

令和6年度（2024年度）は、市役所北口駐車場では料金改定を実施したことなどもあり前年度を上回る増収増益となった。また、指定管理事業では体育会館事業、不入斗公園他事業、公園水泳プール事業、池上コミュニティセンター事業などで利益を確保したことなどにより1億5,800万円を超える黒字となった。

6年連続で収益事業等の黒字化を達成した。

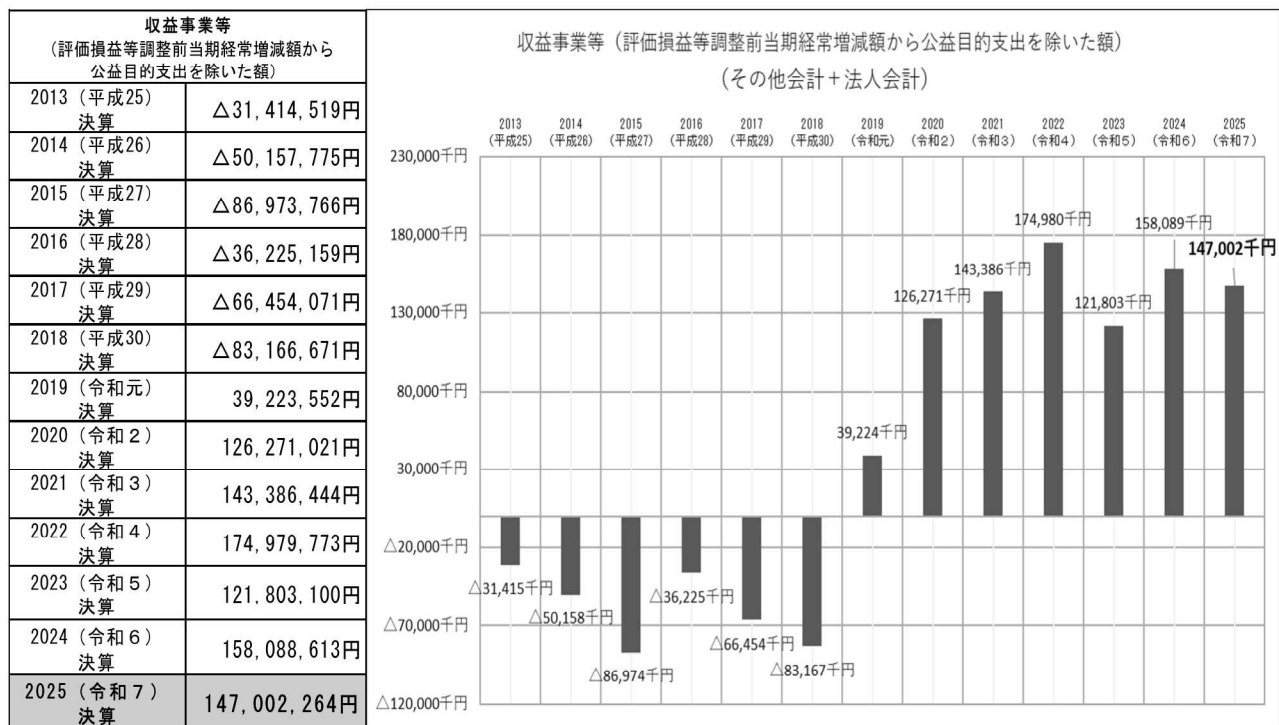
令和7年度（2025年度）は、市役所北口駐車場が引き続き堅調な運営を行うとともに指定管理事業である体育会館事業や池上コミュニティセンター事業に加え、新たな受託事業である市民交流スペース事業でも利益を確保した。

ポートマーケット事業では黒字には至らなかったものの、「企業版ふるさと納税制度を活用した地方創生事業の奨励金」を活用して「よこすか野菜」を中心に地場製品の販売拡充や広報宣伝を行い、横須賀の魅力発信に努めた。また、令和7年5月から毎月開催している「横須賀朝市」の集客により店舗全体の売り上げは伸びている。

7年連続で収益事業等の黒字化を達成した。

	評価損益等調整前 当期経常増減額 (ア)	公益目的支出 (実施事業等会計) (イ)	収益事業等(評価損益等 調整前当期経常増減額から 公益目的支出を除いた 額)(アイ)
2025(令和7)年度 決算	41,982,776円	△105,019,488円	147,002,264円

○収益事業等の推移(法人会計含む)



4 公益目的支出計画は7年連続で年間目標を達成

- (1) 公益目的支出計画については、令和元年（2019年）9月に「公益目的事業、市への寄附（特定寄附）、継続事業」を3本の柱とし、年間支出予定額の変更（年 約2億8,700万円→年 約1億円）、計画期間の変更（13年間→41年間）の認可を受けた。

令和2年度（2020年度）及び3年度（2021年度）は、コロナ禍により大規模な集客を図る事業を開催することとはできなかったが、派遣型の事業やリモートによるコンサート、観客数を制限したコンサートを開催したり、感染対策を十分行ってスポーツ教室を開催するなど計画を上回る公益目的事業を展開した。

令和4年度（2022年度）は、コロナ禍で3年間中止となっていたスポーツ能力測定会を、支出計画変更後初めて開催することができた。また、スポーツ・文化振興事業をより積極的に展開し、リニューアルオープンした”よこすかポートマーケット”では、トップアーティストセミナーの一環として、地元にはゆかりのある音楽家が音楽文化の醸成を図り、音楽の素晴らしさを伝える Sunset Live（サンセットライブ）を開催した。

令和5年度（2023年度）は、コロナ感染症の感染法上の位置付けが2類から5類に移行したことで、サンセットライブやコンサートをはじめとしたスポーツ・文化振興事業を前年度より更に積極的に展開した。特に、CSYトップアスリート等指導セミナーでは「アンプティサッカー体験会」、「ポートマーケットeスポーツフェスタ」のほか池上コミュニティセンターやしょうぶ園でのコンサートなど新たに9事業を実施するとともに、横須賀市に対しても5年連続1,000万円以上の現金寄附を実施し、公益目的支出計画の年間目標を達成した。

令和6年度（2024年度）は、平野早矢香さんや寺川綾さんなどの五輪メダリストによるトップアスリートセミナーを実施するとともに、記念艦三笠チャリティーコンサート、「やさしさ広がる」チャリティーコンサート、池上スプリングコンサートではチャリティー募金箱を設置するなど地域福祉にも貢献するトップアーティストセミナーを開催した。

また、特定寄附先に新たに3団体（横須賀市社会福祉協議会、日本赤十字社神奈川県支部、横須賀商工会議所）を加え、総額1,300万円を超える寄附を実施し、公益目的支出計画の年間目標を6年連続で達成した。

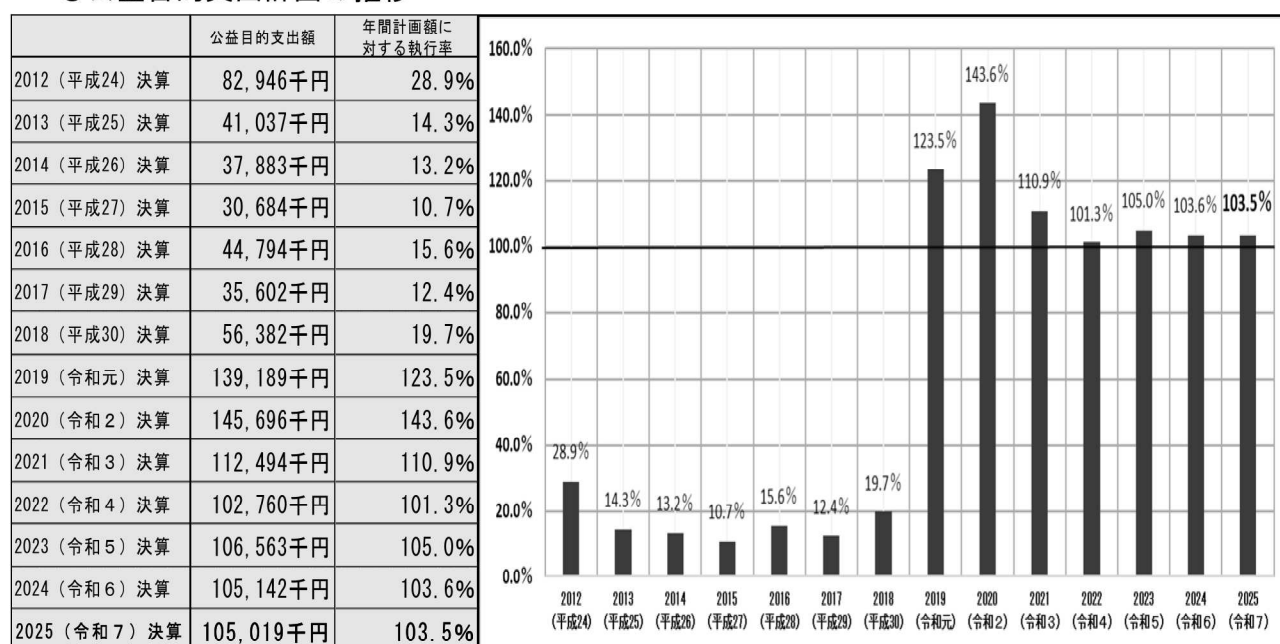
令和7年度（2025年度）は、CSYトップアスリート等指導セミナー事業で新たに16事業を加えた計41事業を実施した。

「アーバンスポーツのまち横須賀」を支援すべく、BMXとパルクールの体験会と学校訪問事業を市と共催で実施するとともに、令和6年度に続く五輪メダリストとして大友愛さんによるバレーボール教室を開催するなどスポーツ振興事業を実施した。

一方、文化振興事業では、「ヨコスカ街なかミュージック」を寄附により支援するとともに、ポートマーケットではSunset Liveに加え、Lunch Time Live（ランチタイムライブ）を令和7年4月から開催し、アーティストの新たな活躍の場を創出した。

また、日本の伝統文化に触れる機会も創出し、「日本文化にしたいむひととき（茶道ほか）」や「こども花火工房 ゆめ花火 花火玉レプリカを作ろう」など、音楽以外の文化振興も展開し、公益目的支出計画の年間目標を7年連続で達成した。

○公益目的支出計画の推移



※令和元年度（2019年度）～令和3年度（2021年度）は、市へ土地を寄附（現物寄附）したため高い執行率となった。

(2) 公益目的支出計画執行状況表

●公益目的支出額

当初計画額 年間目標 約286,735千円(平成24年6月1日から実施)

変更計画額 年間目標 101,445千円(令和元年9月1日から実施)

但し、令和元年度は年間目標 112,678千円

※市への現物寄附(土地)は令和元年度から3年度で完了し、4年度以降はスポーツ・文化振興事業など公益目的事業を強化して公益目的支出計画を実施していく。

【変更認可前】公益目的財産額：3,725,848,851円(A)

年次	年度	計画			実績			
		公益目的 支出額(円) (ア)	公益目的財産 残額(円)	支出累計 額に対する 執行率 (%) (イ)/(A)	公益目的 支出額(円) (イ)	当年度計 画額に対 する執行 率(%) (イ)/(イ)	公益目的財産 残額(円)	支出累計 額に対する 執行率 (%) (イ)/(A)
1	H24	286,735,163	3,439,113,688	7.7	82,946,348	28.9	3,642,902,503	2.2
2	H25	286,735,163	3,152,378,525	15.4	41,037,151	14.3	3,601,865,352	3.3
3	H26	286,735,163	2,865,643,362	23.1	37,883,218	13.2	3,563,982,134	4.3
4	H27	286,735,163	2,578,908,199	30.8	30,684,182	10.7	3,533,297,952	5.2
5	H28	286,735,163	2,292,173,036	38.5	44,793,771	15.6	3,488,504,181	6.4
6	H29	286,735,163	2,005,437,873	46.2	35,601,996	12.4	3,452,902,185	7.3
7	H30	286,735,163	1,718,702,710	53.9	56,382,332	19.7	3,396,519,853	8.8
		2,007,146,141	1,718,702,710	53.9	329,328,998	16.4	3,396,519,853	8.8

【変更認可後】公益目的財産残額：3,396,519,853円(B)

年次	年度	計画			実績			
		公益目的 支出額(円) (ウ)	公益目的財産 残額(円)	支出累計 額に対する 執行率 (%) (ウ)/(B)	公益目的 支出額(円) (エ)	当年度計 画額に対 する執行 率(%) (エ)/(ウ)	公益目的財産 残額(円)	支出累計 額に対する 執行率 (%) (エ)/(B)
8	R1	112,678,000	3,283,841,853	3.3	139,189,268	123.5	3,257,330,585	4.1
9	R2	101,445,000	3,182,396,853	6.3	145,695,846	143.6	3,111,634,739	8.4
10	R3	101,445,000	3,080,951,853	9.3	112,493,971	110.9	2,999,140,768	11.7
11	R4	101,445,000	2,979,506,853	12.3	102,759,649	101.3	2,896,381,119	14.7
12	R5	101,445,000	2,878,061,853	15.3	106,562,622	105.0	2,789,818,497	17.9
13	R6	101,445,000	2,776,616,853	18.3	105,141,975	103.6	2,684,676,522	21.0
14	R7	101,445,000	2,675,171,853	21.3	105,019,488	103.5	2,579,657,034	24.0
15~40	R8~33	2,637,570,000	37,601,853	98.9	—	—	—	—
41	R34	37,601,853	0	100.0	—	—	—	—
		3,396,519,853	0	100.0	816,862,819	—	2,579,657,034	24.0

【累計】公益目的財産額：3,725,848,851円(A)

年次	年度	計画			実績			
		公益目的 支出額(円) (オ)	公益目的財産 残額(円)	支出累計 額に対する 執行率 (%) (オ)/(A)	公益目的 支出額(円) (カ)	当年度計 画額に対 する執行 率(%) (カ)/(オ)	公益目的財産 残額(円)	支出累計 額に対する 執行率 (%) (カ)/(A)
1~14	H24~R7	1,050,676,998	2,675,171,853	28.2	1,146,191,817	—	2,579,657,034	30.8

(3) 令和7年度 公益目的事業の内訳

ア 【公益目的事業】CSYスポーツ・文化振興事業(約58,745千円)

(ア) CSYスポーツ能力測定事業

- ・スポーツ能力測定会(8月5日)

(イ) CSYトップアスリート等指導セミナー事業

【トップアスリートセミナー】

- ・トップアスリート講師派遣事業
(6月7日、9月13日、10月13日、11月22日)
- ・BMX学校訪問事業(7月1日・2日)
- ・「はじめてのBMX」無料体験レッスン(7月19日)
- ・チリリン・スクール(6月14日、11月15日、12月6日)
- ・パルクール学校訪問事業(10月1日・2日)
- ・パルクール体験会(10月4日)
- ・よこすかスポーツフェスタ2025協力イベント(10月13日)
- ・大人のランニング教室(11月2日・24日)
- ・電動車椅子サッカー体験会(11月19日)
- ・横浜DeNAベイスターズ野球教室(11月24日)
- ・リーフフェスタ2025(11月24日)
- ・39エンジョイススポーツフェスティバル(11月30日)
- ・大友愛さんバレーボール教室(2月15日)
- ・大人のサッカー教室(3月20日)

【トップアーティストセミナー】

- ・ポートマーケットSunset Live(4月11日ほか月2回)
- ・ポートマーケットLunch Time Live(4月4日ほか月2回程度)
- ・リズムトレーニング(4月19日ほか月2回)
- ・日本文化にしたしむひととき(5月18日)
- ・「やさしさ広がる」チャリティーコンサート(6月1日)
- ・トップアーティスト講師派遣事業
(6月10日・11日、10月28日・29日、11月21日・25日)
- ・池上コミュニティセンター「音楽サロン」
(7月6日、9月6日、12月16日、2月6日)
- ・ヴェルクよこすか オテラ歌手の歌声講座(7月26日)
- ・リズム体操forKIDS(7月22日、8月5日・19日)
- ・横須賀美術館コンサート(8月23日)
- ・池上コミュニティセンター「四季を歌う」(5月7日・14日・21日・28日)
- ・北久里浜秋まつり・手作りおもちゃ教室(10月18日)
- ・記念艦「三笠」チャリティージャズライブ in 横須賀トモダチジャズ2025
(11月3日)
- ・池上コミセンまつり「GaleNusオータムコンサート」(11月16日)
- ・ヴェルクまつりコンサート・お茶席・健康チェック(11月23日)
- ・こども花火工房 ゆめ花火 花火玉レプリカを作ろう！(11月29日)
- ・斎藤守也 小さき花の音楽会 in 岩戸支援学校(12月10日)

- ・しょうぶ園クリスマスコンサート（12月7日）
- ・School BrassBand Live at Port Market（12月14日）
- ・ヴェルクロビーコンサート（12月21日）
- ・横須賀市社会福祉協議会新年賀詞交歓会ミニコンサート（1月8日）
- ・横須賀市市民大学寄附講座（1月31日）
- ・横須賀市市民大学市民共同企画講座（2月11日）
- ・横須賀消防団音楽隊コンサート at Port Market（2月14日）
- ・訪問コンサート・動物介在活動（3月1日）
- ・北久里浜桜まつり・手作りおもちゃ教室（3月21日）
- ・池上スプリングコンサート（3月28日）
- （ウ）CSYマリンスポーツイベント事業
 - ・インクルーシブ・マリンスポーツ体験会（11月14日～16日）
- （エ）CSYスポーツ・文化団体等支援事業
 - ・CSY杯横須賀ユースサッカー大会（8月16日～18日）
 - ・Islanders Festa 2025（9月6日～7日）
 - ・いーちゃ・イチャフェスティバル2025（9月6日～7日）
 - ・バリアフリーコンサート「小さき花の音楽会」（10月13日）
 - ・PARKOUR TOP OF JAPAN YOKOSUKA 2025（10月25日）
 - ・CSY杯グラウンドゴルフ大会（11月7日）
 - ・横須賀キッズサッカー大会（11月8日）
 - ・F・マリノスくりはまカップ（11月29日、12月7日）
 - ・YCCゴスペルクワイアクリスマスコンサート2025（12月13日）
 - ・秋山翔吾選手野球教室（12月20日）
 - ・なでしこサッカーフェスタ（1月10日）
 - ・よこすかフェスタ2026（2月7日～8日）
- （オ）スポーツ器具等整備促進事業
 - ・演台・花台各1台寄附
 - ・監視台2台寄附
 - ・ストライダー13台寄附
 - ・ヘルメット13個寄附
 - ・卓球台等一式2セット寄附
- イ **〔特定寄附〕**（約10,393千円）
 - （ア）横須賀市への寄付
 - ・現金寄附（7,650千円）
 - ・現物寄附（1,467千円）
 - （絵本・玩具、対話支援システム、ボッチャ・ボールセット、会議室用イス）
 - （イ）横須賀市社会福祉協議会への寄附
 - ・現金寄附（20千円）
 - ・現物寄附（テーブル、チェア）
 - （ウ）日本赤十字社神奈川県支部への寄附
 - ・現金寄附（500千円）
 - （エ）横須賀商工会議所への寄附
 - ・現金寄附（250千円）

ウ その他（約35,881千円）

（ア）〔公益目的事業〕自転車等保管所事業

（イ）〔継続事業〕市役所北口駐車場事業

（ウ）〔継続事業〕中央斎場事業

令和7年度 公益目的支出額	
ア CSYスポーツ・文化振興事業 （ア）CSYスポーツ能力測定事業 （イ）CSYトップアスリート等指導セミナー事業 （ウ）CSYマリンスポーツイベント事業 （エ）CSYスポーツ・文化団体等支援事業 （オ）スポーツ器具等整備促進事業	58,745千円
イ 市ほか各団体への特定寄附 （ア）現金寄附 （イ）現物寄附	10,393千円
ウ その他 （ア）自転車等保管所事業 （イ）市役所北口駐車場事業 （ウ）中央斎場事業	35,881千円
合 計	105,019千円

5 令和7年度 正味財産増減計算書会計別内訳表

(単位 円)

科目	合計 (ア+イ+ウ)	(公益目的支出 計画) 実施事業等会計 (ア)	収益事業等 (その他会計+法人会計)	
			(収益事業) その他会計 (イ)	法人会計 (ウ)
1 経常収益計 ①	1,288,898,949	83,541,331	1,171,576,732	33,780,886
2 経常費用計 ④	1,246,916,173	188,560,819	1,035,958,738	22,396,616
3 評価損益等調整前 当期経常増減額 ⑤=①-④	41,982,776	△105,019,488	135,617,994	11,384,270
			147,002,264	
4 評価損益等計 ⑥	0	0	0	0
5 当期経常増減額 ⑦=⑤+⑥	41,982,776	△105,019,488	135,617,994	11,384,270
6 経常外収益計⑧	1,715,000	0	0	1,715,000
7 経常外費用計⑨	551,797	0	0	551,797
8 当期経常外増減額 ⑩=⑧-⑨	1,163,203	0	0	1,163,203
9 他会計振替前 当期一般正味財産 増減額 ⑦+⑩	43,145,979	△105,019,488	135,617,994	12,547,473
			148,165,467	

◎ (公益目的支出計画) 市役所北口駐車場事業、中央斎場事業

実施事業等会計： C S Yスポーツ能力測定事業、C S Yトップアスリート等指導セミナー事業
C S Yマリンスポーツイベント事業、C S Yスポーツ・文化団体等支援事業
スポーツ器具等整備促進事業
自転車等保管所事業
特定寄附1事業(横須賀市への寄附)
特定寄附2事業(横須賀市社会福祉協議会への寄附)
特定寄附3事業(日本赤十字社神奈川県支部への寄附)
特定寄附4事業(横須賀商工会議所への寄附)

◎ (収益事業) 市役所北口駐車場事業、森崎ほか駐車場事業、職員駐輪場事業

その他会計： 物品販売事業、消防局庁舎事業、ポートマーケット事業
体育会館事業、不入斗公園他事業、追浜公園他事業、田浦梅の里他事業
勤労福祉会館事業、猿島公園事業、池上コミュニティセンター事業
市民交流スペース事業

◎ 法人会計： 法人運営全般

(参考指標)

1 安定性・収益性

■正味財産比率（正味財産／資産計）→ 92.6%

返済義務のない自己資本の割合から財務基盤の安定性を判断。

比率が高いほど借入金等の影響を受けない安定した財務基盤であるとの目安となる。

	2025（令和7）	2024（令和6）	2023（令和5）	2022（令和4）	2021（令和3）
正味財産	3,684,617千円	3,640,010千円	3,596,592千円	3,595,174千円	3,521,521千円
資産計	3,979,007千円	4,020,850千円	4,079,381千円	3,999,610千円	3,875,685千円
正味財産比率	92.6%	90.5%	88.2%	89.9%	90.9%

■経常比率（経常収益／経常費用）→ 103.4%

経常外の事由を含まない収益・費用の比較により、財務の安定性を判断。

100%以上であれば、事業実施において黒字であることを示す。

	2025（令和7）	2024（令和6）	2023（令和5）	2022（令和4）	2021（令和3）
経常収益	1,288,899千円	1,473,617千円	1,429,673千円	1,424,340千円	1,344,476千円
経常費用	1,246,916千円	1,420,670千円	1,414,445千円	1,352,120千円	1,298,576千円
経常比率	103.4%	103.7%	101.1%	105.3%	103.5%

■総資産当期経常増減率（当期経常増減額／資産計）→ 1.1%

総資本を活用し、どれだけの利益をあげたかを判断。

比率が高いほど効率的に利益をあげている目安となる。

	2025（令和7）	2024（令和6）	2023（令和5）	2022（令和4）	2021（令和3）
当期経常増減額	41,983千円	52,947千円	15,228千円	72,220千円	45,901千円
資産計	3,979,007千円	4,020,850千円	4,079,381千円	3,999,610千円	3,875,685千円
総資産当期経常増減率	1.1%	1.3%	0.4%	1.8%	1.2%

■収益事業等の総資産当期経常増減率

（収益事業等当期経常増減額／収益事業等資産計）→ 3.7%

（公益目的支出計画）実施事業等会計を除く収益事業等の収益力を示す。

	2025（令和7）	2024（令和6）	2023（令和5）	2022（令和4）	2021（令和3）
収益事業等 当期経常増減額	147,002千円	158,089千円	121,803千円	174,980千円	143,386千円
収益事業等 資産計	3,965,293千円	3,962,984千円	4,016,287千円	3,941,265千円	3,814,851千円
収益事業等 総資産当期経常増減率	3.7%	4.0%	3.0%	4.4%	3.8%

※収益事業等＝（収益事業）その他会計＋法人会計

2 硬直度

■流動比率（流動資産／流動負債）→ 620.0%

短期的な財務の健全性を判断。

一般的に流動比率が200%超であれば安全といわれる。

	2025（令和7）	2024（令和6）	2023（令和5）	2022（令和4）	2021（令和3）
流動資産	1,130,418千円	1,113,142千円	1,834,505千円	1,145,122千円	1,290,117千円
流動負債	182,323千円	244,022千円	340,814千円	212,619千円	175,707千円
流動比率	620.0%	456.2%	538.3%	538.6%	734.2%

■借入金比率（借入金残高／資産計）→ 0%

借入金の資産に占める割合を判断。

	2025（令和7）	2024（令和6）	2023（令和5）	2022（令和4）	2021（令和3）
借入金残高	0円	0円	0円	0円	0円
資産計	3,979,007千円	4,020,850千円	4,079,381千円	3,999,610千円	3,875,685千円
借入金比率	0%	0%	0%	0%	0%

3 資金残高

■資金残高 → 約21億300万円

令和7年度は、資金残高が前年度に比べ約5,500万円増加した。

これは、当期一般正味財産増減額が約4,315万円の黒字だったことに加え、消防局庁舎売却代金未収金等によるものである。

退職給付引当資産を除いても1年間の事業を実施するのに必要な資金を確保している。

	2025（令和7）	2024（令和6）	2023（令和5）	2022（令和4）	2021（令和3）
流動資産（※1）	1,130,418千円	1,113,142千円	1,834,505千円	1,145,122千円	1,290,117千円
流動負債（※2）	181,594千円	243,292千円	340,085千円	212,108千円	175,025千円
差引残高	948,824千円	869,850千円	1,494,420千円	933,014千円	1,115,092千円
退職給付引当資産	54,152千円	78,178千円	82,663千円	134,933千円	129,410千円
減価償却引当資産	—	—	—	—	—
投資有価証券（額面）	1,100,000千円	1,100,000千円	300,000千円	700,000千円	700,000千円
資金合計（※3）	2,102,976千円	2,048,028千円	1,877,083千円	1,767,947千円	1,944,502千円
経常的な費用	1,246,916千円	1,420,670千円	1,414,445千円	1,352,120千円	1,298,576千円

（注）資金合計（※3）には、流動資産（※1：現金預金、未収金、前払金、仮払金、預け金、立替金、前払費用、棚卸資産）及び流動負債（※2：未払金（未払法人税住民税等含む）、前受金、仮受金、預り金、賞与引当金）並びに退職給付引当資産、減価償却引当資産、投資有価証券（額面）を含む。